



NEW あしながファミリー

176号

2022年(令和4年) 6月9日

編集責任者 玉井 義臣

一般財団法人 あしなが育英会 TEL (03) 3221-0888
〒102-8639 東京都千代田区平河町 2-7-5 砂防会館本館 4階



特集

第100回 街頭募金

コロナで自粛2年半

全国募金リレー開始



雨の中行われた全国募金リレーのスタートセレモニーで、支援を呼びかける寺本龍正あしなが学生募金事務局長。あしながおじさんをイメージしたシルクハット姿は全国の募金活動を束ねる事務局長の「正装」だ。5月13日、新宿駅西口

遺児、進学断念の危機

緊急保護者調査 値上げラッシュ影響深刻

「コロナ禍に続く値上げラッシュのため、遺児家庭はさらに追い詰められています。ぼくたちは、代弁者として立ち上がります」

5月13日、あしなが学生募金を引っ張る寺本龍正(へりゅうせい)さん(事務局長、中京大4年)の声が、新宿駅西口に響いた。コロナのため2019年10月から途絶えていた全国規模の街頭募金の復活を告げる「スタートセレモニー」。各エリアの奨学生代表も集まり、雨の中、「遺児に夢への挑戦権を与えてください」と訴えた。

半世紀続く街頭募金は、記念すべき第100回を迎えた。例年は春秋に全国一斉に行われるが、今回は5月中旬から年末まで、酷暑の時期を除き毎週土曜日、47都道府県の約150か所をリレー方式で巡る。

募金リレーに先立ち、本会は奨学生の保護者に対し、ウクライナ情勢に伴う値上げラッシュの影響

詳細は特設サイトをぜひご覧ください



を聞いた(詳報8~12面)。「まともな食事がとれていません」「これ以上なを節約すればいいのか」「低所得の家の子は低学歴になるしかないのでしょうか...」。冒頭の寺本さんの決意は、こうした保護者の訴えに突き動かされたものだった。

5月14日、北海道と青森県から同時スタートした募金リレーは、東北各県を南下して、6月には北関東に入った。

「あしながさんにお会いできて、さらに感謝の気持ちが深まった」と語った奨学生。

「この日を待っていたよ」と、貯めていた小銭を抱えて駆けつけてくれたあしながさん。

復活した街頭募金は、新たな出会いとドラマを生みながら、力強く進んでいる。

全国募金リレー スケジュール

5月14日	北海道・青森	10月1日	佐賀・長崎
5月21日	岩手・秋田	10月8日	大分・宮崎
5月28日	宮城・山形	10月15日	熊本・鹿児島
6月4日	福島・茨城	10月22日	沖縄・愛媛
6月11日	栃木・群馬	10月29日	高知・徳島
6月18日	新潟・長野	11月5日	香川・大阪
6月25日	富山・石川	11月12日	奈良・和歌山
7月2日	福井・滋賀		愛知
7月9日	京都・兵庫	11月19日	岐阜・三重
	◇	11月26日	静岡・山梨
9月10日	岡山・広島	12月3日	埼玉・千葉
9月17日	鳥取・島根	12月10日	神奈川・東京
9月24日	山口・福岡		

※変更の可能性があります。

今号の紙面

全国募金リレー開始

(3~7面)

値上げラッシュ 保護者の訴え

(8~12面)

桜井芳雄君からの手紙 第100回街頭募金に寄せて



編集長 玉井 義臣



第1回学生募金事務局。左から3人目が山本五郎事務局長、右隣りが桜井芳雄さん（『週刊朝日』1970年10月9日号より。朝日新聞社提供）

「全国800の大学・短大を目指して、オルグ(勧誘・組織化)行脚の旅に出ました。いろんなところで寝ました。会社の事務所、新聞紙を敷いた夜行列車の床、学生寮、駅のベンチ…。『交通遺児ってなんですか?』から始まります。つめの立たない固い岩を登っている気分でした」。

第100回街頭募金が「全国募金

リレー」という新方式で動き出した先月、桜井芳雄君から「あの日々」を振り返る手紙をもらいました。彼は、あしなが学生募金の土台を築いた6人の秋田大学生の中心メンバー。左上の写真を見てください、交通遺児支援に燃える若者たちの熱気が立ち上ってきませんか。

1970年、6人は全国を6ブロックに分担し、大学サークルの部室の扉をたたき、交通遺児の現状を語り、募金への参加を求めました。その結果、475大学(団体)、約1万人の学生が全国各地の街頭に立ち、2,286万円を集めたのです。

「秋田市内に住む交通遺児の家庭を訪れ、そこで改めて交通事故が家庭におよぼす被害の大きさを思い知らされました。どうして子どもたちがこんな目にあわなければいけないのか。そしてわれわれに何ができるのかと」

1970年10月9日発行の週刊朝日に掲載された桜井君の痛切な思いです。

あれから半世紀以上たちました。残念ながら、病気、災害、自死などで親を亡くす子と残された保護者(母、父、祖父母など)の悲しみ、困窮は変わっていません。ただ、若者の燃えるような思いも、しっかりと受け継がれています。下の写真をご覧ください。募金リレーの中心メンバーです。コロナ禍で2年半途絶えていた全国規模の街頭募金を復活させるため、懸命にがんばってくれています。

「ありがとう」。彼らにかけられる言葉はこれしかありませんでした。募金に立つてくれる全国の奨学生、ボランティアのみなさんにも、同じ言葉しかありません。

桜井君、そして伝説の秋田大学生のみなさん。遺児支援のタスキは、つながっているよ。(2022.6.9記)



「遺児の夢かなえるため、全国に募金のタスキをつなげるぞ」。全国各エリアの代表者たちとガッツポーズ。マスクをとって撮影(5月13日、新宿西口でのスタートセレモニー)。上段左から三輪沙也香さん(中四国)、新一真さん(関東)、佐伯千鶴さん(首都圏)、春田真幸さん(九州)、松永響さん(首都圏)。下段左から芝慎太郎さん(北陸)、井畑綾乃さん(東海)、寺本龍正さん(事務局長)玉井義臣あしなが育英会会長、太田舜也さん(北海道・東北)、里見さやかさん(関西)、渡邊咲良さん(首都圏)

大学院奨学金の申請者倍増

2022年度の本会大学院奨学金の申請者は62人に達し、昨年度の28人から一挙に2倍以上増加した(一昨年度

の申請者も28人)。この申請者の多くが、あしなが育英会が返還不要の給付型奨学金を始めた2018年度の大学入

学者。本会担当者は、「給付型奨学金により、まず大学進学者が増えた。在学中のアルバイト負担が減って学業に打

ち込める時間も増えた。大学生の中に『これからの社会で活躍するためには、大学院で専門性を高める必要がある』との認識も広がってきた」とい

本会の大学院奨学金は月額12万円。このうち4万円は給付、8万円は無利子の貸与。採用者は、書類審査、オンライン面接(6月5日実施)を経て、有識者らで構成する選考委員会で決定する。

玉井義臣本会会長は「経済格差、教育格差の中で育ってきた遺児たちから大学院進学が増えてきたことは、あしなが運動半世紀の歴史にも特記すべきこと。給付型奨学金の成果でもあり、あしながさ

んに感謝を込めてご報告したい。大学院奨学生には学問を通して社会に貢献する志を期待する。本会の資金状況は厳しさを増しているが、志ある大学院生の支援は出来るだけ強化していきたい」と述べた。

特集

第100回街頭募金

全国募金リレー開始



コロナ禍に続き、値上げラッシュにも苦しんでいる遺児家庭の苦しさを社会に伝えたい。私たちの学びへの思いを知ってほしい。北からスタートした全国募金リレー。あしなが奨学生は、そんな思いを胸に、勇気を出して街頭に立ち、懸命に訴えています。



北海道では募金の準備を担う学生募金事務局員の数が足りず、全国から応援の学生が駆けつけた。長野県の大学奨学生、山田光花莉さんは、ボランティア募集や事前説明会だけでなく、当日も募金に立った＝JR 旭川駅前・買い物公園通り



ボランティア参加してくれた旭川北高校インターアクト部のみなさん＝JR 旭川駅前・買い物公園通り

遺児の苦境
学びへの思い
伝えたいから

現地で準備1か月、復活の日が来た

「ご通行中の皆様、ただいまより全国募金リレーをここ北海道からスタートいたします！」

朝10時、これから全国をつなぐ大きなタスクを肩にかけたあしなが学生募金事務局長、寺本龍正さんの呼びかけが札幌駅前に響き渡った。



現地での募金活動の準備は、1か月ほど前から始まる。北海道でも道路使用許可の警察への申請や、募金活動と一緒に立ってくれるボランティアの方を募集するために電話かけを行ったりと、準備を進めてきた。

コロナ禍で活動が思うように行えないことで、北海道の学生募金事務局員はたった2人にまで減ってしまった。しかもその内1人は、コロナ禍での病院実習を控えているため当日は街頭に立つことができない。その分、電話でいてねいに募金への協力を呼びかけ、結果として2つの高校がボランティアとして募金に参加

してくれた。

事務局員が少ない北海道のために、全国からも応援の学生が駆けつけてくれた。街頭募金の実施に先立って開かれた、北海道に住むあしなが大学奨学生向けの説明会。長野県から来た山田光花莉さんは「みなさんと会えるのを楽しみにしていました。一緒に活動できたらとってもうれしいです！」と語りかけた。

当日の参加者からは「遺児たちの経済的状況の深刻さを知り、心からこの状況をなんとかしたいと思いました」「『貧困だったけどこの募金のおかげで進学できた』という実体験を聞き、この募金が実際誰かの助けになっているということが感じられて、本当に意味のある募金なんだということが分かりました。また機会があったら協力したいです」といった感想が寄せられた。「がんばってね」「応援しているよ」と優しい声をかけてくれる人も多かった。



2年半ぶりの街頭に思いがこもる＝JR 札幌駅南口



北海道ブロックの大久保雄斗さん(右)。支援者の温かさに改めて感動した＝JR 札幌駅南口

全国募金リレー 開始

私たちは可哀そうな子どもですか？

青森

5/14



自らの思い、遺児への支援を呼びかける神なぎさん(左)。今回の募金リレーから交通系ICカードでも募金できるようになったJR青森駅・新町通り

通行人の足を止めた勇氣ある「呼びかけ」

あしなが学生募金は、ご寄付を集めるだけではない。奨学生が自らの境遇を社会問題としてとらえ、改革を訴えていく場でもある。その街頭でのスピーチは「呼びかけ」と呼ばれ、多くの人の心を動かしてきた。青森県では、親を自死で亡くした大学生、神なぎさんが力強い「呼びかけ」を行い、道行く人たちの足を止めた。その一部を紹介する(右のQRコードから、動画もぜひご覧ください)。



私自身、6歳の頃に父を自殺で亡くした遺児のひとりです。

皆さんは遺児ってどんな子どもだと思いますか？ 親を失って可哀そうな子ども、貧しいからしっかりと教育を受けられていない子ども、親の愛情をもらえていない子ども。全て私自身が受けてきた言葉です。こんな言葉をかけてきた人はほんの一部ですが、その一部の言葉に深く傷つき、自分は普通とは違うのではないか、自分は普通の人生を歩めないのか、歩んではいけないのか、そんな不安を感じたこともあります。自分の将来やこれからの人生を考えることが怖くなったこともあります。

しかし私は今、実際に会ったことのない、声も聞いたことのない多くのあしながさんの温かいご支援のおかげで進学を果たし、自分の興味のあることをちからいっぱい学ぶことができる、これからの人生に多くの希望を持つことができる、そんな環境にいます。

そして今は、子どもたちの「学びたい」を支えていけるよう、まだ「あしなが」を知らない子どもたちに「あしなが」を届けたい、遺児というだけでこの社会の中に取り残されているような孤独感を感じている子どもたちに、進学や夢を諦めなくてもよい環境を届けていきたいと考えています。



いただく善意に自然と頭がさがる＝JR弘前駅中央口



家で貯めていた小銭を持ってきてくれたあしながさんも＝JR青森駅・新町通り

特集 第100回 街頭募金

秋田
5/21

なまはげも応援!



秋田県名物「なまはげ」(3メートル!)に見守られながら募金を呼びかけた秋田北高校のみなさん＝JR秋田駅構内。「進学したくてもあきらめざるを得ない子どもたちがたくさんいます。夢や目標、自分のやりたいことをあきらめなければならないのはとても悲しいことだと感じます。家庭状況がどうであれ、みんなが進みたい道に進める社会にしていきたいと私は思っています」(募金事務局員・庄司美月さん)

学びを諦める後輩をなくすため

岩手
5/21

義務感から使命感に変わった

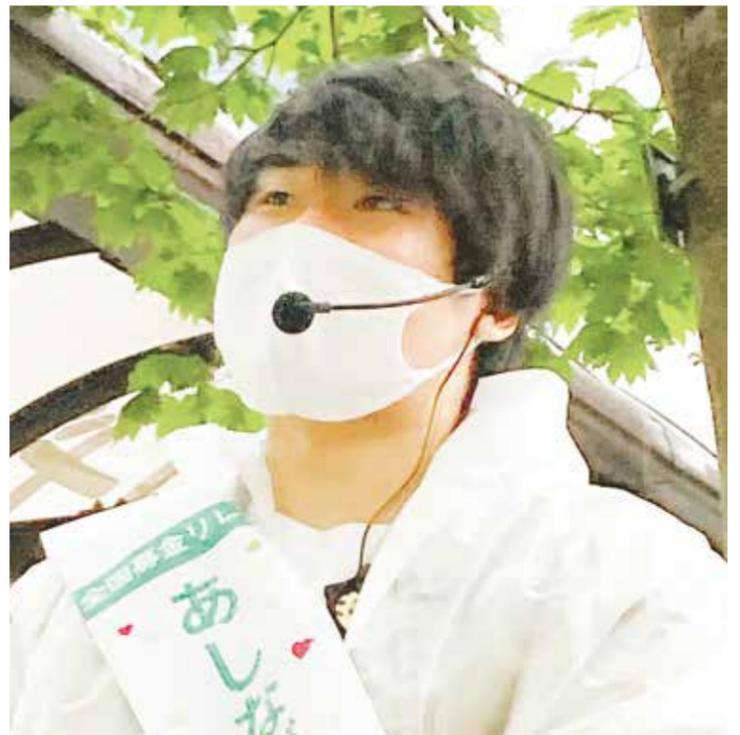
盛岡駅東口の責任者として街頭に立った有住龍星さんは、5歳の時に母親をガンで亡くした。高校1年から、あしなが奨学金を利用し、大学では材料工学を専攻。教育関係の仕事に就くことを目指している。

大学4年になり、今回が最後の募金活動。「少しでも長く街頭に立ちたい」と、熱い気持ちで臨んだ。

あしなが学生募金の中核メンバーである学生募金事務局に参加した当初は、「奨学金を受けているのだから」という義務感が強かった。しかし、それは次第に使命感へと変わっていった。活動で知った、学ぶことを諦めなければならない子どもたちの存在。この子たちの未来のために、「早く、街頭募金を復活させなければ」と思った。仲間たちとミーティングを重ね、必死に準備を進めてきた。

「東北エリアの仲間たちの存在も、活動を続けてきた大きな理由の一つです。1年生のときに自分を温かく迎えてくれた優しい先輩たちがいました。『ここにいてもいいんだ』と思うことができました。同じように後輩たちを温かく迎えることを心がけています」

募金当日、日中は日差しが厳しかった。夕方からは雨になったが、終了時間の18時まで、力の限り訴え続けた。後輩遺児が学び続けることを願って。



盛岡駅で募金を呼びかける有住さん。「普段仲良くしている人に対しても、悩みを打ち明けることは勇気がいるし難しい。誰にもいえない悩みを抱えている遺児たちを支えられるのが奨学金です。岩手の皆さん、温かいご支援ご協力よろしくお願いします！」＝JR盛岡駅前滝の広場



なぜ街頭に立つのか

募金に参加する大学奨学生に向けて事前の説明会が実施された。募金活動についてのイメージを共有してもらうため、死別家庭・障がい者家庭の現状について説明し、自分が街頭募金に参加する理由を考えた。説明会は、オンラインでも行われた。＝5月18日、いわて県情報交流センター

全国募金リレー 開始

宮城
5/28

留学生「人生は変えられます」



仙台市ではアフリカの遺児留学生2人も募金を呼びかけた。県内の高校に留学中のマイケルさん(写真左。ウガンダ出身)は「最初は慣れない日本語での呼びかけにとっても緊張したけど、周りの学生たちのサポートや街頭の方々からの励ましのおかげで最後は大きな声で呼びかけすることができました。たとえ1円でも誰かの人生を変えられるということ、沢山の人が知ってもらえたらうれしいです」と感想を語った= JR 仙台駅西口2階



進学支えた奨学金 つなぐ

東北工大生・太田さん

6歳の時に病気で亡くなったと聞いていたはずの父親は、実は自死だった。そう告白する母親の苦しそうな表情を今でもはっきり覚えている。当時中学2年生だった太田舜也さん(20)は「俺がちゃんとしなきゃ」と覚悟を決めた。青森県五所川原市で母親と祖母との3人暮らし。障害者施設で働く母親は忙しそうで、家計が楽じゃないのは分かっていた。中学で卓球部に入り、新しい用具が必要な時も「無理をさせないか」と申し訳なきでいっぱいになった。高校2年生のときに進路に悩みながらも、「大学に進学したい」と思った。地元を出て広い世界を見てみたかった。母親も進学を勧めてくれた。高校の先生に相談すると、「あしなが育英会」の奨学金を教えてくださいました。それで進学を諦めずに済み、東北工業大学(仙台市)に進学した。

「あしなが」2年半ぶり街頭募金

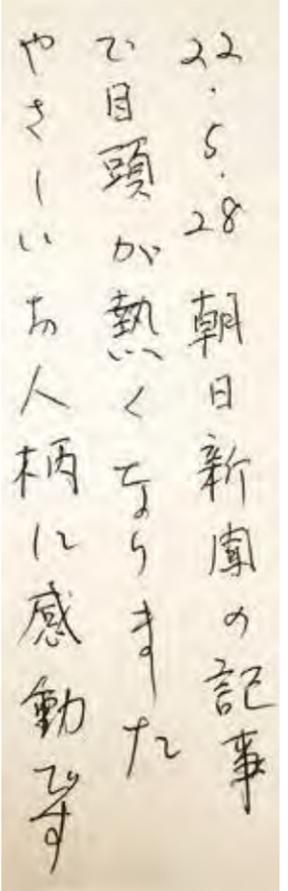
進学した。仙台の育英会で親を失った同じ境遇の友人ができ、自分のことを正直に話せるようになった。入学当初はコロナ下でアルバイトを探すのに苦労したが、リサイクル店で週3回働いている。大学3年の今、月7万円(うち貸与4万円、給付3万円)の育英会の奨学金は食費や生活費に使い、学費には別の奨学金を充てる。子どもたちの助けになりたいと、今年2月から育英会で学生募金事務局の東北地方のエリアマネジャーを務めている。21日には盛岡市内で8時間、街頭募金に立った。28日もJR仙台駅前に立つ。

あしなが学生募金のたすきを持つ太田舜也さん=仙台市青葉区

親を亡くした子どもへの奨学金を募る「あしなが学生募金」の全国リレーが5月から始まっている。28日午前10時〜午後6時、仙台駅西口ペDESTリアンデッキと仙台パルコ本館前や藤崎本館前、仙台フォオラス前の4カ所で奨学生やボランティアら約30人が募金箱を持つ。本格的な街頭募金の再開は2年半ぶりだ。寄付は郵便振り込み「あしなが学生募金事務局」(口座番号00140・4・18706)でも受け付けている。(福岡龍一郎)

朝日新聞

2022年5月28日



募金箱にそっと入れられていた支援者からのメッセージ

私は、あしながさんに救われました



工藤さんにとって大学生生活最後の募金活動。思いを込めて「呼びかけ」を行った=山形市「a z 七日町」前

大学4年、工藤優佳さんの街頭での「呼びかけ」です。

私が3歳の時、私の父は難病を患い、障がい者になりました。父が入院するたびに家庭の経済状況は悪化しました。先の見えない不安定な日々を送る中、高校3年生の進路選択の時期に、初めて家族と衝突しました。その頃、私の周りの子たちは皆大学へ進学することを決めており、当然のように私も大学へ進学するつもりでいました。しかし「受験料、入学金、授業料、アパート代…」調べれば調べるほど、現実の厳しさが家庭を襲いました。

そして、私の前ではマイナスなことを一切言わなかった父が、「もっと裕福な家庭に産んであげたかった」と言葉をこぼしました。そんな言葉を言わせてしまった自分が嫌になり、「わがままを言って家庭を困らせてはいけない」「卒業したら働く道も考えよう」と思うようになりました。

大学への進学を諦めようとしていたちょうどその時、この奨学金の存在を知り、私は進学という夢をかなえることができました。今の私が存在するのは、紛れもなく「あしながさん」のおかげです。自分が救われたように、今度は私たちが次の世代の子どもたちを救いたい、子どもたちに希望を持ってもらいたい、「あしながさん」という存在をより多くの人に知ってもらいたい、そのような想いを込めて街頭に立っています。

山形
5/28

特集 第100回 街頭募金



いっしょに募金に立ってくれた高校生のみなさん＝ JR 福島駅東口



本会奨学金で会津大学に留学しているジンバブエ出身のクンダイさん(4年)も、募金への協力を日本語で呼びかけた＝ JR 福島駅東口



郡山市では2019年10月の募金が台風19号と水害の影響を受け中止となり、丸3年ぶりに復活した＝ JR 郡山駅西口



タスキは 東北から 北関東へ



私たちの思い 社会へとどけ



やり遂げた！ JR水戸駅での募金を終えて記念撮影。この時だけマスクを外して



後輩たちの進学を支えたいと、募金への協力を呼びかける学生たち＝ JR 水戸駅

● 募金リレー前半 今後の予定

- 6月11日
 - 栃木県 JR 宇都宮駅
 - 群馬県 JR 高崎駅、JR 前橋駅、JR 伊勢崎駅
- 6月18日
 - 新潟県 万代シテイ、古町西堀通りバス停
 - 長野県 JR 軽井沢駅、JR 長野駅、JR 松本駅、JR 上田駅、JR 上諏訪駅
- 6月25日
 - 富山県 JR 富山駅
 - 石川県 JR 金沢駅、近江町市場、香林坊アトリオ

- 7月2日
 - 福井県 JR 福井駅、JR 敦賀駅
 - 滋賀県 JR 石山駅、JR 大津京駅、JR 草津駅、JR 南草津駅
- 7月9日
 - 京都府 阪急桂駅、阪急京都河原町駅、JR 二条駅、JR 山科駅、JR 桂川駅、イオンモール KYOTO
 - 兵庫県 JR 姫路駅、JR 加古川駅、JR 明石駅、JR 三ノ宮駅、阪急六甲駅、JR 住吉駅、JR 芦屋駅、阪急西宮北口駅、JR 尼崎駅、阪急川西能勢口駅、JR 六甲道駅、JR 元町駅、地下鉄名谷駅

(募金リレー後半は9月10日開始予定)

最新の日程は こちらから



値上げラッシュ 保護者の訴え

コロナの影響が今なお続く中、ウクライナ情勢の悪化や20年ぶりの円安で、生活必需品の相次ぐ値上げが重なった。その遺児家庭への影響を把握するため、あしなが育英会は4月末から5月にかけて、奨学生の保護者を対象にアンケートを実施した。全国から寄せられた切実な声の一部を紹介する。

あしなが奨学生の保護者アンケート

- ◇対象 全奨学生の保護者のうちメールアドレスを登録している2,005人
- ◇回答数 765人。回答率38.2%
- ◇質問 生活必需品の値上げラッシュによる経済的、精神的な苦労や悩み。自由記述形式
- ◇期間 4月27日～5月12日
- ◇方法 メールで呼びかけ、WEB上でのフォームで回答

白湯でおなかを満たしています

都道府県	回答者	不安や悩み
北海道	高校3年の母 50代	北海道の地方に住んで居るので、車は必需品ですが、この所の ガソリンの値上げ、灯油の値上げは本当に痛い です。パートで働きながら、息子を育てていますが、最低賃金上がる毎に時給は少しずつ上がっていますが、追いつかない感じです。この物価の高騰がいつまで続くのか、先行きが見えません。
青森県	高校2年の母 50代	子どもがコロナウイルスに感染。私も濃厚接触者になり、 隔離療養期間はひとり親家庭ではきつかった です。また、灯油やガソリン代等の値上がりがかつてきています。この前の国の給付金10万円は非課税世帯の方が対象。ひとり親家庭にも給付金をお願いしたいです。
岩手県	高校2年と 大学2年の母 40代	コロナ、震災、物価上昇。これらの状況を受け、勤務日数が減り、それに伴い給料が減りました。春と言うこともあり、出費はかさみ、昨年子ども達の塾は辞めていたので、切り詰めるところは食費です。質素なものを食べさせてばかりで 親として申し訳ない気持ちでいっぱい です。先の見えない世の中。お金もないので更に不安です。
宮城県	大学1年と 大学4年の父 50代	前から普通の生活が厳しい中、身の丈に合った生活をしているが、どんどん厳しさが増している。正直1日3食できていない、食事の回数が1日2食から1食の時もあります。 なんとか白湯などで満たしている が辛い。生活費の事が頭から離れず、不安で眠れない。何をすれば良いかわかりません。子どもに申し訳なく思います。疲れた。
秋田県	高校2年の母 50代	日々の生活をこなすことで 心身の余裕がありません 。子どもは大学へ進学を希望してるため応援したいのですが 経済的不安もあり複雑な気持ち です。
山形県	大学4年の母 60代	子どもは目指す資格の為に現在の大学に進学した。医療系で地方ということもあり、首都圏の大学に比べはるかにコロナに過敏で、ほぼほぼオンラインばかり。アパートでパソコンの日々。しかし、様々な教授との出会いの中で、ジャンルは同じだが本当に追求したいものが変わってきたようで、「今興味ある分野をもっと学びたい。大学院に進みもっと研究してみたい」と言ってきた。ここまで来て、お金を持ち出し諦めてくれとは言えなかった。わかったと言ったは良いが、この社会状況で、正直 経済的不安が今まで以上に大きくなる のしかかる。娘も私も必死でやるしかない。夫とは11年前に死別し、自分もあと1年程で退職。元気なら働けるだけ働こうとは思っている。今までの預貯金も保険金も、毎月の生活の赤字補填に消えていった。昨年度から雇用の格差解消の為に、臨時職員から会計年度任用職員となり、少し給料が上がった。行政の数字の割りきりはすごい！ 年収が3～4万オーバーしただけで給付の金額は年マイナス246,000円。授業料減免もマイナス240,000円 に…。トータル500,000円近い金額が減らされてガックリです。
福島県	大学5年の母 40代	獣医学部5年になりましたが、コロナの影響でアルバイトも出来ず、また十分な仕送りも出来ないため、23歳の息子ですが 体重が45キロしかない状態 になってしまいました。ゴールデンウィークのニュースなども拝見しますが、旅行や外食の機会もなく〇〇クーポンなどのお金を自由に使える方限定の割引制度に不満を感じます。できるなら大学生の毎月の生活に補填して欲しいです。様々なものが値上がりし、自分の日々の生活も苦しいです。 「低所得の子どもは低学歴」 になってしまうことを危惧し、必死にどうにか生きています。
茨城県	短大2年の母 50代	お米を買うのも大変な状況で、コロナ禍で休校になり仕事にも行けず毎日が必死で、洋服や日用品もなかなか買ってあげられないし、ガソリンは上がるし 灯油は高いから寒くても我慢 していました。とにかく何でもかんでも値上がりで、一家心中した方がいいのかとまで思いました。
栃木県	高校3年と 専門3年の母 50代	お菓子類は、買わないようにしています。 食事の品数を減らしたり、安い食材を使う ようにしています。

値上げラッシュ 保護者の訴え

母子手当とフードバンクで生活

都道府県	回答者	不安や悩み
群馬県	大学5年の母 50代	病院に勤めている為これまでに2度、クラスターになりました。同居している両親もいるので健康面では気を遣い、 自分が動けなくなったら…と心配 です。ウクライナ情勢の悪化では色々な物の値上がりがあり、自分たちの生活もそうですが大学5年生になった子どもも学業が忙しく、バイトも出来なくなった子どもに物資を送る事も難しくなるのではないかと感じております。
埼玉県	高校3年の母 50代	コロナがかなり身近になり、仕事場も常に緊張感を持っており、フルで出勤する立場としては、仕事だけでなく、家でやるべき事も手抜きもできず、体力も、精神的にもただただしんどいです。うまく言い表せないですが、1人でやりくり、 主人とは元気で一緒に子育てをやりたかった 、いつも、そう考えてしまいます。でも、現実、旅立ってしまったのだから、頑張るしかないです。
千葉県	大学4年の母 50代	経済的に切り詰めた生活をしています。具体的には最近ですと、 300円がなく在学証明書が取れなかった から明日はバス代から用立てるなど、ギリギリやりくりをしています。奨学金のおかげで在学できています。感謝しています。
東京都	高校2年の母 30代	精神障害者手帳2級を保持しており、奨学金で子どもの高校の資金を賄っております。医師の診断も就労困難とされており、このコロナ禍でなかなか仕事先もなく、精神的にも追い詰められています。生活は困窮しており、実家が近いだけで生活保護は受給させてもらえません。 母子手当とフードバンクで生活していて私はほとんど食事をしません 。フードバンクもこの前終わってしまいさらに困窮しております。どうか打開策をと日々色々しておりますが、全くなく途方に暮れている毎日です。
神奈川県	高校3年の母 40代	コロナ感染拡大の中で、ひとり親の為 自分に何かあれば生活出来なくなってしまうのではないかと考えると精神的に不安な毎日 を送っております。経済も危うい状況のなか拍車をかけるように、ウクライナ情勢の悪化で生活している中で物価が上っている事に凄く不安を感じます。
新潟県	高校3年と 高校1年の母 50代	息子が高校三年生で、本当なら県外にも進学のためにオープンキャンパスに行かせてあげたいのですが、もしコロナ等の不測の事態になった時に、一人親の私が 子どものために仕事を休むと減給かクビになりそう で、行かせてあげる気持ちにならず、子どもに申し訳なく思い、鬱々としてしまいます。
富山県	専門2年の母 40代	終わりの見えない コロナ禍やウクライナ情勢で、家庭の生活は、かなり厳しくなっております 。ガソリン代、灯油代高騰や、日常生活に置ける日用品等まで高騰となっている中、私の体調不良により、正社員では働けず、アルバイトとして働いておりますが、時給も据え置きで、なおかつ、会社の経費削減で、働ける日数が減っているのが現状です。子どももアルバイトをして、生活を助けて貰っておりますが、私の身体の事もあり、これからの生活が安定するのか、とても不安でなりません。遺族年金も減額されて、本当に生活は厳しい状態です。
石川県	高校3年と 大学2年の母 50代	日常的には、ガソリン代の上昇により、ますます必要以上に外出しなくなりました。食費もかさむので、カイワレ大根やジャガイモなど、 野菜を食べた時に残りを土に植えて、再利用 するようにしています。食費を抑えるために、食事の量も減りました。昨年から雨漏りするのですが、経済的に苦しいのでそのまま生活しています。キッチンの蛇口もしかりで、生活をする上で精いっぱいなので、家の修繕費まで手が回らない状態です。子どもたちが成人するまで、なんとかもたせたいと思っています。
福井県	大学2年の母 40代	生活に必要な物の 物価が上がり、支出が多くなり、収入は変わらない ので、働く時間を増やしたり、節約を頑張ってます。つらく悲しいことが重なると、気分が落ち込みますが、家族で励まし合い、頑張っています。
山梨県	専門2年と 大学4年の父 50代	生活していく上で不可欠なものの度重なる値上げでなかなか余裕はできません。子ども達も切り詰めた生活を強いられています。 先輩からのお下がり を頂いていると聞いています。それでも自分の夢に向かって頑張っているようです。一日も早いコロナの収束、ウクライナの終戦を祈っています。
長野県	大学4年の母 50代	収入に見通しがたたず、大変不安です。物価が上がり続け収入が安定しない中、わたしひとりで家族(身体の弱い母の生活と娘の教育)を支えていくのは厳しく、 その日その日の綱渡り のようです。その不安を家族に悟られないように、自分を奮い立たせる毎日です。

値上げラッシュ 保護者の訴え

食事は1日1回、入浴は週1度

都道府県	回答者	不安や悩み
岐阜県	大学1年と 大学3年の母 50代	自分ではどうにもできない状況下での困窮で、いただける支援をありがたく思います。ただ自己責任論や一定のラインでの弱者同士の叩き合いの世の中では、子どもを育てている片親もその子どもも、 周囲に申し訳なく生きるしかないような世間のありさまがとても辛い です。
静岡県	大学2年と 大学4年の母 40代	工場勤務ですが、やはりコロナやウクライナ情勢の影響を受けて売り上げが少ないそうです。家庭急変の為、せっかくパートから社員にして頂きましたが 会社の今後が不安 です。息子は英語の勉強を兼ねて留学したくて高校から頑張っていたのにそれも難しくなってしまったそうで、とても残念です。
愛知県	高校2年の母 40代	身体が不自由な夫は思うように働けず、ますます月給が削られてしまいました。「働かせてもらっているだけマシ」とは思いますが、加えて私(母)の職場が10月からパートの社会保険加入で働くのにリミットがついてしまいます。周りでは、高くなっていく商品は目につきますが、安くなっている商品とはなかなかお目にかかれません。息子に不自由な生活や介護は出来るだけさせたくない、学校生活を満喫してもらいたい、というのが私の考えですが、どうしても負担をかけてしまっているのが現状です。 私が倒れてしまっただけでは生活が成り立たないので、なんとかやっつけよう と思っています。あしながさんには大変感謝しています。
三重県	高校2年と 大学5年の母 40代	こんなに値上げが続き、生活を切り詰めるのが益々大変な状況です。コロナが終息する気配もなくマスク代や消毒などの出費も続いていますし、食費をさらに削るしかありません。子どもも察しているのか、 塾や部活をやりたくてもお金の心配をして入ろうとしない という事もありました。口には出しませんが、子どもなりの我慢しているところは他にも沢山あると思います。学校では分からないところは先生に質問しに行ったりしていますが、なかなか何度も聞きに行ける状況ではありません。塾にも通えない子どもが勉強の相談を気軽に電話などで質問できる場所があればいいなと思います。
滋賀県	高校1年と 高校2年の母 40代	飲食店勤務ですが、コロナ禍でお店の営業時間が短くなり働かせてもらえる時間が減りました。それに伴い 毎月のお給料が3分の2にまで減りました 。子ども達が育ち盛りですが物価も上がっていて困っています。
京都府	大学3年の母 50代	私は難病で下肢障害があります。週に2回のパートも1回に減らされ、ここ2年は 入浴も週に一度、食事は一日に食パン1枚とバナナ1本 のみ、という日々が続いています。死んでしまいたい衝動に駆られることも何度もありました。娘が大学生なのですが、この春から1年間休学することになりました。4回生になりますと、就職活動でほとんどアルバイトに入れなくなるため、休学して学費や下宿費用のために掛け持ちでアルバイトをすることに決めました。やはり 娘が無事に社会人になるまでは死んでも死にきれません 。なぜこんな病気や障害を背負ってしまったのか、なぜこんなに食べることに苦勞しなくてはならないのか、生きている意味はあるのか、そんなことばかりを考えてしまいます。今はただ、休学した娘が無事に次年度復学してくれることを祈るのみです。
大阪府	高校3年の父 50代	食料品の値上げによる生活費の圧迫で、食費の節約が大変です。他の物も同様に値上がりするんじゃないかと、とても不安です。大学進学を控えてお金がかかります。色々考えて眠れない日もあります。子どもには受験に専念して欲しいので、親の不安な気持ちは気付かれないようにしているので 精神的にとてもしんどい です。
兵庫県	大学2年の母 60代	ウクライナの国の方を思えば、寝て起きて、次の朝が迎えられる事だけで感謝です。しかし、現実には、コロナ禍に、追い討ちをかけるように、ウクライナ情勢の悪化、2つの仕事と家事にと、 ボロ雑巾のように働く毎日 です。
奈良県	大学2年の母 50代	経済的には既に諦めて自制するしかない子どもにも自分にも言い聞かせて日々不安の中過ごしています。就活を来年に控える子どもにとっても先の不安は大きいと思われます。航空業界または国際関係業務に就く希望を抱き大学に進学したものの、海外での課外活動や研修など、元来企画されていた物事の多くが消滅延期となっており、期待通りにいかない絶望の中、それでも就学出来る事が有難い、と本人は喜んで通学しています。障害のある親として、仕事も出来ず、 ただ見守る事しかできないのが何より辛い のですが、子を見習い、めげず、親子協力して将来を見据えようと思います。今は我慢の時です。子どもが先を開いてくれると信じています。
和歌山県	高校2年の母 50代	いろいろな物の値上がりで経済的負担が厳しいです。また子どもが学生なのでコロナに対しての不安がなくなることはありません。子どもの進路に対しても、今のような社会情勢が続くのであれば目標としている進路に進めるのか、 親として心配するばかり です。

値上げラッシュ 保護者の訴え

もう、どこまで頑張ればいいのか

都道府県	回答者	不安や悩み
鳥取県	専門3年の母 50代	コロナ禍で家族分の毎日のマスク代や消毒液代だけでも、従来にない費用で家計への負担が大きいと思っているのに、ウクライナ情勢や円安で、何段階にもわたる食品や商品、燃料費など生活にかかる あらゆる物の値上げにうんざり しています。値上げに見合って収入が上がるわけでもなく、抱える家族が多いので家計のやり繰りにこちらも音を上げています。また、主人を介護しているのでコロナに罹ったら生活はどうなるだろうかと、コロナ禍で就職先が減っているため、最終学年の子どもは卒業までに就職できるだろうか？ 県内就職で返済が免除になる制度も利用しているのですが県内就職は可能だろうか？ 奨学金の返済はどうなるだろうかなど考えると不安でいっぱいです。返済に関しては子どもの不安はとて大きくて今後どうなるのか、どうしたらいいのかお先真っ暗です。
島根県	高校3年の母 40代	生活必需品や、ガソリンの価格高騰により、経済的に苦しい状態は以前より増えています。 経済的負担の面を考えると子どもが進路を選んでいるようで、申し訳ない気持ちでいっぱい です。
岡山県	専門2年の母 40代	この4月に就職した上の子がいます。3月まであしなが奨学金のお世話になっていました。東京にいますが、ちょうど 4月の頭にコロナになり、休みももらえず、そのままクビ になってしまいました。バイトをしているようです。なんとか学校も卒業させることができたのに、残念でなりません。
広島県	大学3年と 大学4年の母 50代	生活保護を受給しており、子どもは世帯分離しています。飢え死にすることはありませんが、ゆとりのある生活はできません。 何かあっても子どもに全く援助してやれません 。「困った時には帰っておいで」と言えない。金銭的なゆとりもないし、生活保護制度の制限もあるので、仕方ないのだけどつらいです。コロナやウクライナ情勢が、子どもたちの就活にどう影響するかも心配です。コロナであしながの活動も含めさまざまなことが中止になり、人との関わりや経験を積むことができず残念に思います。
山口県	大学2年の母 50代	少しずつと思っても、月単位にするとかなりの金額になる物価高で支出ばかり増えています。仕事から、副収入を得ることも出来ないの で、自転車操業のようなやりくりが胃が悪くなります 。卒業まで、仕送りしてやる事が出来るのか、不安ばかり募ります。コロナで授業や実習が出来ないと聞くと、支払うものは変わらないのに、中身が薄くなっているな、と腹立たしさも募ります。
徳島県	高校1年、 高校2年、 大学2年の母 40代	同じように困窮した家庭は沢山あるかと思えます。コロナ禍でただでさえ苦しい状況なのに値上げラッシュ。先日もガス代が上がるとの連絡を受けました。ガス会社も大変なんだと思います。私達ひとり親家庭は どこまで頑張ればいいのか？ 家庭のために学校終わりにバイト、自分の為に使うお金ではなく家族の為に子ども達も協力しての日々の生活。家族の絆は深くなり、連絡を取り合いお互い労る毎日。とても幸せを感じながら生きてはいますが、どこまで頑張れば少しましな生活がおくれるのか、親として子ども達に申し訳ない気持ちでいっぱいです。
香川県	高校4年と 専門2年の母 40代	貯金ができていない状況で、昨今の物価上昇になり途方に暮れています。 家計簿や通帳を見るとため息しか出ません 。なんとか出費を削ろうと私だけ1日1食にしたりする日もありますが、貧血になってしまい病院でお薬をもらって本末転倒です。子どもの学校では今もコロナ感染者が次々に出ていて、うちはいつかと震えています。経済も疫病も、終わりが見えないのがとても辛いです。
愛媛県	高校2年の母 40代	物価上昇したものの給料は上がらないため食費を削るしか無く、 食べ盛りの子に栄養のあるものを満足に与えられていません 。コロナもあって父親が亡くなってからどこにも旅行に行けていないので、ストレスが溜まってないかも心配所です。
高知県	大学3年の母 50代	車移動しか手段のない土地で生活しています。ガソリンの高騰により、必要以外には外出を自粛せざるを得ない状況です。子どもには多種多様な経験をさせてあげたい。奨学金をいただいている子以外にも小さな姉妹がおります。贅沢はしなくとも、休みの日にはせめて海や動物園などに連れて行ってあげたいのですが…交通費を考えると諦めてしまいます。私の幼少期には当たり前だったこんなレジャーすら叶わない世の中で、望む教育を与えてあげられるのでしょうか。また、下宿をしている子にかかる食費も高騰しており我慢をさせることが多いです。 減っていく通帳を見るたび、不安でいっぱい です。
福岡県	高校2年の母 40代	食材やガソリンが高くなってきて、私が節約していると子どもは 進学ではなく就職をした方がいいのかと悩んでいました 。奨学金を返済するのも不安のようで…。就職も今までは良かったが、これからはコロナの影響が出始めると学校側も思っているようでした。

値上げラッシュ 保護者の訴え

肉、野菜、フルーツ…カゴ一杯買ってみたい

都道府県	回答者	不安や悩み
佐賀県	高校2年の父 40代	コロナの影響で自営業の状況が思わしくありません。さらにガソリンや食品の値上げで家計収支の悪化が続いている状態です。贅沢をガマンするというレベルでは解決困難です。おつとめ品、特売品などで対処は元々やっています。たとえば食事を1日1回は食パン2枚のみとするなどしています。栄養状態がよくないことはわかっています。 肉、野菜、フルーツなどをカゴ一杯に買ってみたい ですね。
長崎県	高校1年と 専門2年の母 40代	今年1月には前期学費一括75万、寮の設備費20万を支払わないといけなくなり、学校にも今月末まで待つて欲しいとお願いし、奨学金と教育ローン、遺族年金と合わせようやく支払いを済ませほったところ。次男は公立に進学しましたが、公立とはいえ今月までに入学準備、定期代、模試代、選択授業費に16万かかりました。まだ部費などの連絡はないですが、数万円覚悟しています。 来月は遺族年金もない月ですのでどうやって生活やりくりするか 考えています。税金の支払いも重なり4、5月が毎年生活が厳しく、お金の事を考えると冷や汗がでます。しかしウクライナ、ロシアの戦争をしたくない方の生死の不安を考えると、私たちはまだまだ幸せな方だと思います。
熊本県	大学2年の母 50代	コロナ禍3年、何もかも悪循環です。パートからアルバイトになり仕事のシフトも減り給料も減額、生活費は変わらずと言うよりもガソリン代含め高くなって毎月毎月火の車です。 大学に通わなければまだ負担も軽くなるかとよぎった時もありました 。臨時給付金も一時的なお金ですので、直ぐになくなります。少しずつでも継続的に国から給付してもらえれば助かります。
大分県	専門2年の母 50代	私の年齢が高く、体にあちこち支障がでてきて、病院通いをしながら、パート勤務をしています。収入も少なく、病院代もかかり、毎月苦しい生活を送っています。その中で、ガソリンの高騰、食料品、生活用品の値上げ…どうやって食べていけばよいのか？ 本当に火の車です。自分の化粧品、服もこの何年間では買えないです。田舎の為、車がないと生活できず。学費は奨学金でどうにかりますが、他の文具、通学費、少しばかりのおこづかい…子どもの学校は片道一時間ほどかかるため、平日の帰宅は早くて19:00前になり土曜日まで授業があり、その日の復習、予習で夜中まで勉強していてバイトをしたら勉強する時間が取れないのでバイトができない状況。本人が頑張っている、今のところはトップの成績をとっています。国家試験に受かって、就職することを第一目標にしてもらっています。本人もうちの家計を分かってくれていて、無駄遣いせず、ほとんど遊びに行かず、頑張ってくれています。 本当にこんな親元に生まれてきたことに申し訳なさを感じながら、毎日をとにかく健康でいてほしい。どうやって食べさせるか？ それだけを考えながら生きています。
宮崎県	高校2年と 専門1年の母 50代	コロナのため、障害者1級・要介護5で施設に入居している夫との面会は病院の付き添いがあるときのみです。かわいそうですが、一緒になって病んでいると子どもが道に迷います。強く生きるしがなく、ため息も出ますが、ただ強い気持ちを持って今年の1月から始めたパートの仕事。やっと3ヶ月がたち、仕事も随分覚えて精神的にも楽になりました。田舎ですから、軽自動車での移動です。専門学校の送迎、通勤、買い物、夫の洗濯物やおむつの引取搬入とガソリンも高く、無駄に動かないようにしておりますが、田舎での自動車は贅沢品ではなく、必需品なので、 もとの120円台のガソリン価格にならないかと 願っています。物が壊され、人が殺されたり、怪我をしたりと、ウクライナの戦争が早く終結して、ロシアに制裁を与えてほしいと心から思っています。誰のための戦争なのかと。コロナで世界が大変な時なのに、なぜ戦争をするのかと。オリンピックもあったのに、何でと。
鹿児島県	大学4年の母 50代	コロナに戦争と世の中はとても騒々しくなっています。人への思いやりがなくなっているような事件も毎日耳にします。ため息が出てしまう日々ですが、私達家族はかろうじて日常を保っている状態です。 子ども達がコロナに感染して、私はこの一年で3回も長期にわたって仕事に行けませんでした。父親は心臓移植をしている為、ワクチンを打てません 。不安の中なんとか仕事をしています。こうして生活が出来ているのが不思議なくらいです。
沖縄県	高校2年の母 30代	食料品にはじまって、日用品の全てが値上げされ、何を買うにも慎重になって値引き品ばかり買ってしまう。子どもたちにバランスよくご飯を食べさせようとする、成長期なのもあって、とても食費がかかる。これから先の進路も、好きなように進ませてあげたいが、私はシングルな上、障害のある下の子の介護があり働く事もままならないので、 どこまでしてあげられるかが分からなくて不安 。

どうして「かなしい父の日」があるの



6月19日は父の日。父を亡くした遺児たちは、どんな思いでその日を迎えるのでしょうか。本会が作成した作文集「父の日にお父さんはいない」から一編をご紹介します。

私は5歳のときに、お父さんを亡くしました。お母さんには言っていないですが、父の日がとても悲しいです。

私は父の日についても思います。どうして悲しい父の日があるんだろう。

私は保育園のときにパパを亡くしたので、少ししか記憶がありません。だから私は父の日があると、「どうしてパパのことを、少ししか覚えていないの」と思うようになりました。

私は頑張って、「父の日だから笑わなきゃ」と思います。

周りの人は父の日はいい日ですが、私にとって父の日は悲しいという気持ちでいっぱいです。でも、大きくなるにつれてパパに「どんだんがんばるよ。」と伝えたい気持ちも出てきました。

私は父の日にパパに言いたいことが、山ほどあります。「あしたはテストだからがんばるね。」とか、「今日は、いろんなことがあったよ。」とか、いっぱい父の日に言いたいです。

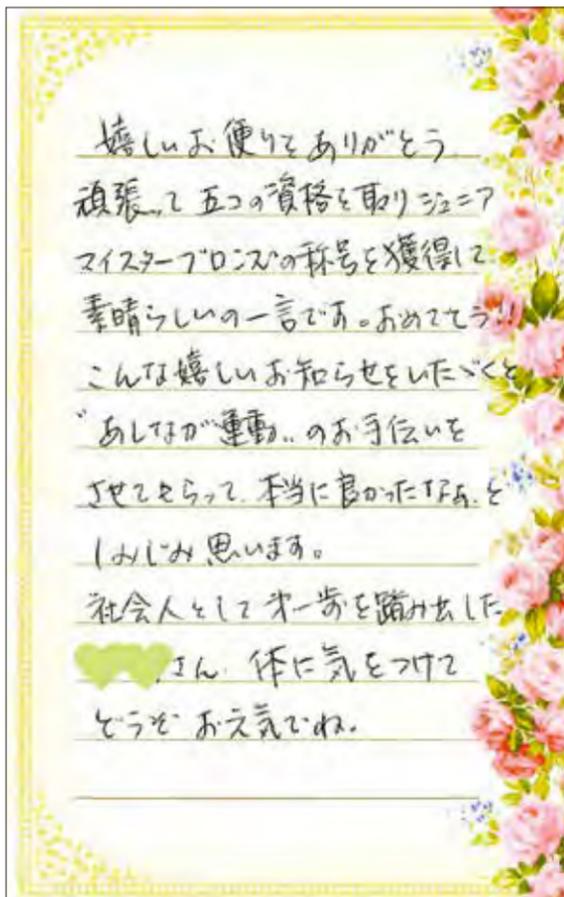
でも、これがいちばん言いたいです。「パパありがとう、育ててくれて。レインボーハウスというプレゼントもくれて、ありがとう。」と言いたいです。

もう一度、パパに会いたいです。

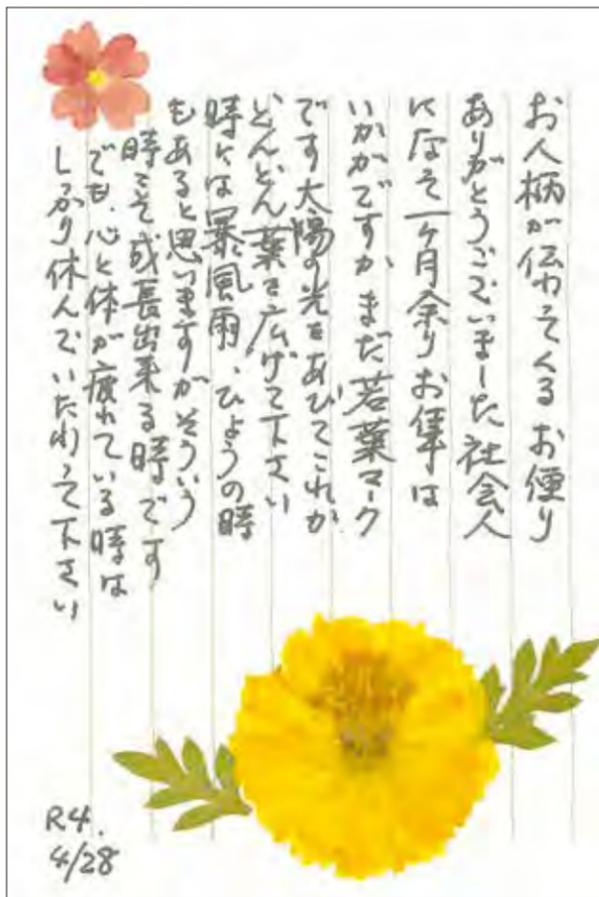
小学4年生・女子

あしながさんからのお手紙

この春、高校や大学を卒業した奨学生のお礼状にあしながさんからたくさんのお返事をいただきました。社会に旅立つ卒業生への温かい応援メッセージをご紹介します。



(京都府・70代)



(新潟県・70代)



イラスト・天野聡美



縫って結び目をこしらえた晒(さらし= Bleached cotton)を肌につけていれようとする。今も昔もそれは変わっていない。いつか、何が変わったのだろうか。

千人針と守護神の鐘

80年前、アメリカ日系人は「敵性民族」として強制収容所に送られた。その収容所から志願して戦場に向かった青年たちがいた。

「千人針」を身に着け、戦い、死んでいった。今、ウクライナで戦う若者たちも母から贈られた「守護神の小さな鐘」(Guardian Bell)をポケットに忍ばせて戦っている。だが進軍ラップを吹きながら指導者は母親の悲壮な祈りには目をくれ

ば、銃弾を受けない。そんな願いをアメリカに移住した母親は踏襲していた。日米戦争に駆り出された大和民族の若者たちがともに

お葉書有難うございます。今月から建設会社で働かれるとのこと。どんな建物を設計したいと思われませんか。私事になりますが、震災を経験した身としては、あの様な場合でも人を守る事ができる構造物を期待して止みません。また古刹を見ていますと古人の知恵に驚かされるばかりです。新しい環境でお疲れの事も多いと存じますか。どうかお体お大切になさりながら頑張ってください。門出の春にと桜の絵葉書にしました。

(兵庫県・60代)



世界中の子どもに人形を届ける活動などを続ける寺尾のぞみさん(前列右から5人目)は本会アメリカ事務所代表。「入塾記念講演」で、目標に挑み続ける重要性を語ったあしなが心塾

学生寮「あしなが心塾(東京都日野市)」と「虹の心塾(神戸市東灘区)」の入塾式が、4月4日、両塾をオンラインで結び同時開催された。今年の新入塾生は東京が36人(うち留学生9人)、神戸が9人の計45人。式典では、玉井義臣塾長・本学会長が式辞を述べ、村田治会長代行(関西学院大学学長・遺児奨学生OB)が、大学在学中に学ぶべきことをアドバイスした。

夢をかなえます

東京・あしなが心塾

文学を学び出版業界で働きたい



山本官永さん
文学部
日本文化学科

私の父は家族で一番の働きものでした。私が小さな頃から、朝早く仕事に出て、夜遅くに帰ってくるのが普通でした。高一の冬、私の父は脳梗塞で倒れ、半身不随で寝たきりになりました。

面会は週に1、2回ありましたが、コロナ禍になってからはオンライン面会が続きました。心塾に来る以前の面会で、父は画面越しに、「やりたいことは学生のうちに挑戦してほしい」と言っていて、背中を押してくれました。

や短歌など、日本の伝統文化にまつわる作文にも挑戦してみようと思います。私は昔から作文などの文章を書くのが好きで、将来は出版業界に就職したいと思っています。また、日本文化についての理解を深めるためにも、さまざまな視点から文学を学びたいと考えています。

は、古文や近代文学から、マンガやアニメーションまで、幅広い分野の日本文化に触れることができます。また、科目によってはグループワークやプレゼンテーションがあります。社会に出て必要な論理的思考や行動力、協調性を磨きたいと考えています。

出版業の仕事は、編集や校正・校閲、取材などさまざまです。大学や心塾での活動を通して、たくさん文学について学び、いろんな経験を積もうと思っています。忙しい毎日に負けず、将来の夢の実現に向けて、そして私をいつも支えてくれる家族のために、どこまでも前進していきます！

チャレンジして学びを得る



片岡莉央さん
商学部商学科

私はこの春晴れて大学生となり、大きな環境の変化と同時に今までよりもはるかに大きな自由を手に入れました。行動範囲も広がり、自身の行動の制約も薄れ解放感を感じる一方で、の

しかかる責任感に苦しみました。親元を離れ心塾での生活が始まって以来感じるのは、女手一つで私を育て上げてきてくれた母の偉大さばかりです。そんな中ふと考えることは、大きな自由を手に入れ自分の行動に選択を迫られたとき、その選択肢に答えは存在するのかわからないこと。エゴを最優先してしまえば、自分が最大限に利益を得られる

選択が答えとなります。しかし、得をする人が存在する一方で、そのために自分の利益を諦め我慢をする人が必ず存在します。「平等」を掲げる場面によく遭遇しますが、実際は人生で迫られる選択のうちのほとんどが利益を完全に平等にすることが不可能なもので、どんな行動に関する選択にせよ、妥協なしに全会一致を得られるものなどほとんど存在しないのではないで

しょうか。先述した問いに対し、与えられた選択肢の中に答えなど存在しないのではないかと思えます。ある人の考える最善の選択は独善的なものになり、必ずしも他の人にとって最善とは限りません。しかし、全会一致を得られなくとも賛成してくれる人を増やすことは可能です。そのため大学生になって自由を手に入れた私たちが必要とするのは「自律」することだと

思います。自身を律することで視野が広がり主観的な判断を回避できると思います。多分野で学習の機会を与えられている大学生のうちにくさくさの経験をして、少しでも自律した大人になれるよう成長したいです。そのために様々なことにチャレンジし失敗も経験することで学びを得たいと思っています。そのような機会を頂いているこの恵まれた環境に感謝し励んでいきたいと思っています。

母国の教育問題を解決したい



ユーリック・アンジアンバロさん
東京日本語教育センター

私はマダガスカル共和国から参りました。現在、大学合格を目指して東京日本語教育センター

1で日本語を学んでいます。2022年4月後半、私は日本に到着しました。予想通り、日本の生活様式は故郷とは全く異なっていました。例えば、日本ではバスや電車など全て時間どおり運行されており、私自身も時間を守るようにせねばなりません。異国から来た新入生とし

て、日本での生活は全くもって容易ではありません。しかし、心塾で他の留学生や日本人と暮らし、職員そして先輩たちがゴミの捨て方、交通移動方法など新生活の日々をサポートしてくれています。

心塾の生活環境は、自然に囲まれ閑静で素敵です。学生として日程はとも忙しいですが、常にさわやかなそよ風をうけながら、特に夜、敬虔かな日本的美観のなかで食事を楽しんでいきます。まさに魅了されています。また、他塾生らと共に日々の心塾講座や様々な活動を通じて、豊富な経験を頂いています。

大学の、私は国際関係を学びたいと考えています。マダガスカル教育の質は国際的にみて良くなり、インフラ如や金銭的問題で学校に通えない子ども数は日々増えています。大学卒業後、私はNGOに就職し、母国のそれら教育関連の問題を解決したいです。私の人生の新たなチャプターはまだ始まったばかりです。日本の大学と心塾で専門的、そして個人的にも新しい経験を積み重ねることを心から楽しみにしています。(原文は英語)

「心塾」とは あしなが育英会は地方出身の遺児らが都市部の大学に進学できるように、寮費月1万円で2食付の学生寮「虹の心塾(神戸・1999年～)」と「あしなが心塾(東京・2006年～)」を運営している。心塾では、「礼儀・挨拶」を重んじ、集団生活や独自のカリキュラムなどを通じて、「暖かい心」「広い視野」「行動力」「国際性」を育む。現在、東京と神戸あわせて100人以上の心塾生が生活している。



3年ぶりに開催した「あしなが心塾キャンプ」。学年、国の壁を越えお互いを知り仲間意識を深めるために、上級生が中心になりプログラムを考えた。交流ゲーム後、表彰され歓喜する1年生＝5月14日

私たち心塾一年生



5月4日に行われた地域の祭りで、だんじりの屋根に乗る虹の心塾生たち。新入塾生にとって地域の人々と交流する絶好の機会になった＝神戸市東灘区、神戸虹の心塾レインボーハウス前

心に寄添う管理栄養士を目指す



湊本紗希さん
人間健康学部
健康栄養学科

私はこの春から大学生となり、地元を離れ東京での新しい生活がスタートしました。高校生活で、既に実家を離れて寮生活をしてきたことから親元を離れての生活は苦ではありません。

から母は一人で私たちを育ててくれました。当時は、シングルマザーの仕事と家事・育児の両立の大変さをあまりよく理解出来ていませんでしたが、今になってその偉大さを身に染みて感じるようになりました。そんな母とあしながさんのおかげで、奨学金のおかげで高校を無事卒業することができ、私の将来の夢である、管理栄養士の養成課程のある大学に進学することができました。

大学生活では、管理栄養士になるために勉学に励み国家資格を取得するのはもちろんですが、友達との仲を深めることや学業に差し支えない程度のアルバイトをしたりと、きちんとメリハリをつけて充実した大学生活を送りたいと考えています。それに加えて他の学生の皆

さんと違って私には心塾での生活もあります。毎月の読書感想文、英語レッスン、その他の公式行事など大学の課題以外にもしなければいけない課題がたくさんあります。心塾に入塾する前から心塾と大学の両立ができるのかということが一番大きな不安でした。入塾してから日は浅いですがその大変さを少しずつ感じてきています。大学と心塾の生活を両立できるように、何事にも余裕を持って行動するこ

とを心がけていこうと思います。私は、病院や産婦人科で働く管理栄養士になりたいと考えています。特に、患者さんや妊婦さん一人一人の体調に合った栄養指導や寄り添った心のサポートができる管理栄養士になり社会に貢献していきたいです。今まで私のことを支えてくださった周りの人たち、母やあしながさんに恩返しできるように、また期待に応えられるように一生懸命努力していきたいと思っています。

留学に向け英語で伝える力磨く



上野輝石さん
グローバル・コミュニケーション学部

私が三重県の実家を出て虹の心塾に入ったのは、3月28日のことでした。集団生活への不安を抱きながら神戸に来たことを思い出します。入塾式などの行事やカリキュラム、大学の授業で忙しい日々となり、約2か月間、手探りで進んできた感じがします。しかし、同期の間は

5月初めには、心塾がある地域のだんじり祭りに参加しました。1日中だんじりを担いだり押したりして体力的には大変な部分もありましたが、地域独自の文化を学ぶことができました。私たちのような新住民を快く受け入れてくださり、地域の人々の温かさを感じました。

周囲の温かいサポートのおかげで歩んでくることができた、という点も共通していると感じました。在籍している学部では、3回生で半年間の留学が必須になっています。英語だけで行われる授業もあります。しかし今はまだ、英語で自分の考えをうまく伝えられませんが、今後、TOEICなどの学習で知識を増やしながら、伝える力も身につけていきたいと思っています。心塾では毎週英会話講座があり、コミュニケーション力を強化する場を与えられています。しっかりと学び続け、留学に生かしたいと考えています。「多くの人のサポートがあって、やりたいことに挑戦できている」という感謝を忘れず、自分の視野をどんどん広げていきたいと思っています。

とても話しやすく、すぐに打ち解けることができました。同部屋の心塾生とはさまざまなことを相談し合える仲間になり、塾生の方や先輩の支えもあって、少しずつ今の生活に慣れてきました。

一つは「同じ境遇の子どものケアにかかわりたい」ということです。入塾後、神戸レインボーハウスのケアプログラムに関するオリエンテーションがあり、阪神・淡路大震災で両親を亡くした姉妹の思いを伝える映像を見ました。突然親を亡くした悲しみ、「この先どうなるのか」という不安が自分の経験と重なりました。その姉妹も自分も、

神戸・虹の心塾

遺児にも将来を選択する権利がある

あしなが学生募金事務局長の寺本龍正さん(中京大4年)による全国募金リレー・スタートセレモニー(5月13日、東京・新宿駅西口)でのスピーチを紹介いたします。

皆さんは大切な人を亡くしたことがありますか。私は高校2年生の時に大切な父親を病気で亡くしました。元々裕福な家庭ではなかったため、一家の大黒柱であった父がなくなり、家庭の経済状況は悪化しました。

父親を亡くしてからは、母親が働きに出て家計を保ってくれました。2人の妹とも話し、母の負担を少しでも減らすため、家のことを分担していこうと考えました。そして何より家族を大切にしようと思えました。いつ家族が、大切なひとが亡くなるかわからない。だからこそ毎

寺本龍正・あしなが学生募金事務局長 全国募金リレー開幕スピーチ

日をお大切に、家族にありったけの感謝をもって生きています。

あきらめていた大学進学

高校時代、私は妹たちを優先して進学させてあげたいという思いから、自身の大学進学という選択肢を捨てていました。そんな時に高校の担任の先生からあしなが育英会の奨学金制度を教えていただき、進学することを決めました。大学に入学し、様々な学びを通じて自分の将来について考えることができました。

できたのは、紛れもなくご支援してくださったあしながさんのおかげです。しかし、親を亡くした子どもの多くは、家庭事情や経済事情から進学という選択肢を捨ててしまつのが現状です。あしなが育英会が2021年度に行った高校奨学生の保護者調査では、平均手取り月収は10万6485円であり、一般労働者と比較すると約10万円も低いことがわかりました。

代弁者として立ち上がる

あしなが育英会が行った「ウクライナ情勢や円安による値上げの影響調査」で、元々苦しい遺児・障がい者家庭はさらに苦境に立たされていることがわかりました。どうして、苦しい家

庭がさらに追い詰められるのでしょうか。なぜ、パートナーや親を亡くした上にこのような暮らしを強いられなければならないのでしょうか。

私は子どもが自分の将来を限られた選択肢で生きていかなければならないことに疑問を感じます。アフリカの最貧困地域でも、今回のウクライナ侵攻でも遺児が生まれています。私と同じ悲しみを持った子どもが生まれており、他人事にはできません。私は誰しもが自分の将来を自由に選択できる権利を平等に持っていると考えます。それは国や時代、環境が違っても同じことです。だからこそ、今、僕たち代弁者が立ち上がらなければならぬのです。

父の遺品を見つけて、泣きました

寺本さんに父への思いを聞いた。

多くの名前には父の強い願いが込められています。父は中日ドラゴンズの大ファン。ぼくにドラゴンズのスター選手になってほしいと、「龍星」と名付けようとした。ただ、「星」より「正」のほうが字の画数がいいので「龍正」になったと聞きました。

小さいころから父と野球漬けの日々。少年野球チームへの送り迎えは父の運転する車で。バッテリーセンターやナゴヤ球場にもよく連れて行ってくれました。小学生のころは、中心選手として活躍

できました。父のエネルギーをぼくが独占しているようで、2人の妹には申し訳ない気持ちすら抱いていました。

しかし、中学に入ったころから、身体があまり大きくならなかったこともあり、心が折れ、野球をやめました。悲しそうな父を覚えています。

先日、家の中から父が好きだったタバコが見つかりました。ぼくは泣きました。

もし、父が生きていたら、一緒にお酒を飲みたい。野球をやめた後、バドミントンに打ち込み、県大会にも出たことを話したいです。

ご支援ありがとうございます。

みなさまの継続的なご寄付のおかげで私たちの活動が続いています。

◆ 郵便局(ゆうちょ銀行) 備え付けの青色の用紙でお振込みされる際は、こちらの口座番号をご利用ください。ご寄付の使いみちは次の5つからお選びいただけます。

- 1 00140-1-541731 あしなが育英会
(あしなが育英会の活動全般に使わせていただきます)
- 2 00180-0-15595 あしなが育英会あしながさん奨学金係
(国内遺児の奨学金として使わせていただきます)
- 3 00140-6-98241 虹のかけはし会員
(国内遺児の心のケア活動に使わせていただきます)
- 4 00130-7-776732 あしなが東日本大震災遺児支援募金
(東日本大震災遺児の支援に使わせていただきます)
- 5 00150-3-734125 あしながアフリカ遺児教育支援
(アフリカ遺児の奨学金や教育支援に使わせていただきます)

【重要なお知らせ】2022年1月17日より、郵便局(ゆうちょ銀行)での現金払込みに手数料が新設されました。大変恐れ入りますが、必要な手数料のご負担をお願い申し上げます。なお現金の払い込みではなく、ご自身のゆうちょ銀行口座からご送金いただく場合は手数料の加算は発生いたしません。

◆ お問い合わせ

フリーダイヤル(寄付課直通) 平日10時~16時
0120-916-602

Eメール
supporter@ashinaga.org

詳しくはウェブサイトをご覧ください
https://www.ashinaga.org/support/donation/



遺贈のご相談も
うけたまわっています

フリーダイヤル(遺贈相談室直通) 平日9時~17時
0120-971-546

不動産などのご寄付もうけたまわっています。
お気軽にお問い合わせください。
Eメール legacy@ashinaga.org

